

平成23年度第3回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要

日 時：平成23年9月25日（月）
午前9時30分～午後4時30分
場 所：弘前図書館2階 視聴覚室

出席者：審査委員 檜楨委員長、阿部副委員長、島委員、成田委員、齋藤（秀）委員、
清藤委員、齊藤（き）委員、小山委員、前田委員、吉本委員、東谷委員、
長内委員、工藤委員、小林委員、田中委員
※欠席なし
市民生活課 北岡参事、堀川総括主査、葛西主事
農村整備課（事業番号4のみ） 三上課長補佐、小山主幹

- 1 公開ヒアリング（午前9時30分～午前12時00分）
1事業あたり約15分でヒアリングを実施
（7分以内で事業内容の説明。その後8分程度で質疑応答。）
- 2 公開審査会（午後1時00分～午後4時30分）
 - ・3次募集事業の審査
審査会の進め方について
… 1事業ごとに審査。
前回は事務局が作成したタタキ台を基に審査を行ったが、今回より事務局の提案
を出さない形で審査を行うことに変更。
 - ・その他
不採択団体等へのフォローアップについて（提案）

《審査内容》

- 1：北地区コミュニティ会議安全・安心のまち（安全な町づくり推進事業）／北地区コミュニティ会議

【主な意見】

- ・全市的に取り組んで欲しい事業である。
- ・こういう事業は、いざ行動する時というのは難しいこと。地域をあげてやるものには目立ったもの（ユニフォーム等）がないと効果がない。
- ・ユニフォーム（帽子・ベスト・腕章）を揃えることにより、北地区の皆さんが元気に活動していただければいいのではないかと。
- ・制度をPRするためにも、ベストに1%システムを活用していることの表記をお願いできないかと。

【採択結果】

- 採択（申請額どおり）。
- ベストに「市民参加型まちづくり1%システム対象事業」の表記をお願いすることとする。

● 2 : 中野町会「餅つき大会」／中野町会

【主な意見】

- ・一次募集では夏祭りなどを対象としているため、不採択とする理由はない。
- ・住民意識として、町会の福利厚生に対して行政が応援することは、大変いいと思っている。どこまで支援していくかは、今後の課題である。

【採択結果】

採択（申請額どおり）。

● 3 : 「音楽ボランティア協会・赤とんぼ」創立10周年・記念誌の発行

／音楽ボランティア協会「赤とんぼ」

【主な意見】

- ・とても素晴らしい活動をやっているが、記念誌の発行となると自分たちの活動の報告になってしまう。歌集などを作った方が効果があるのではないか。
- ・音楽ボランティアのマニュアル的なものも盛り込むことはしているが、その割合までは分からない。
- ・この記念誌を基にして、音楽をやっている団体に広めていきたいということなので、例えば試作のようなものを作って、次に申請いただくというのであれば可能性があるのではないか。
- ・イベントを実施し、これまでの活動を公開していくのであれば、活動を広げていくことができるかもしれない。

【採択結果】

- ・これまでの活動については高く評価をしているが、記念誌の発行はこれまでの活動の記録が主になることから、団体の会費等で発行いただくものと判断。 ⇒ 不採択

● 4 : 農道維持管理事業／三和町会

【農村整備課からの意見】

- ・農道の維持管理は、歴史的経緯から道路を使用している地域の方をお願いしている。その農道を舗装する場合には国または市の補助制度がある。農道除雪は、農作業を支援するため春先に一回除雪するための予算措置をしている。その実施時期は、過去のデータを参考にしながら降雪や積雪が安定して下がる時期に行っている。農道の劣化による補修については既存の補助制度がないため、また、りんごの剪定の時期に合わせて、町会が地域のことを考え自主的に除雪していきたいということで、1%システムの制度に申請されたと理解している。

【主な意見】

- ・この事業を採択とした場合、農道は他にもたくさんあるので1%システムで対応ができなくなる。ここまでは行政でやりますので、ここからは市民にお願いしますという線引きが必要ではないか。まちづくりは何なのか、行政として考えていかなければいけないのではないか。
- ・住民ニーズがあるのであれば、1%システムで考えるのではなく、所管のところで予算化するべきではないか。
- ・地域で維持管理している農道の整備に加え、現在市でやっている除雪の事業を、町会が自主的にやっっていこうという内容であるので、モデル事業として実施してみて、これがなかなかよいとい

う話であれば、今後制度を作っていくことも必要ではないか。そういう形であれば将来性があると思う。

【採択結果】

対象事業として賛成・反対の意見が分かれたため採決。

賛成の委員12名起立により採択。(会議費(お茶代)については対象外)

●5:「前川國男の建物 in 弘前」身近にあるあずましき発見レクチャー&ツアー

／前川國男の建物を大切にする会

【主な意見】

- ・市は景観のことを大事にしようとしている。その中で残すべき景観を守っていくには、市民の団体が育っていかないといけない。そういう意味では今回の事業は意義がある。
- ・この事業は必要ないのではないか。講師を呼んでくるのがまちづくりなのか。この事業が広がっていくとは思えない。
- ・事業には賛成だが、支出の中の講師謝礼について、これは団体の顧問に対するものであり、対象外経費ではないか。
- ・講師謝礼について、この方でないレクチャーできない部分もある。事業を実施する上で必要な人であれば、ケースバイケースで対象としてもよいのではないか。
- ・団体の顧問ということはそこを理解して顧問になっているのではないか。一次募集でも対象外としている。ただし、交通費については、離れたところに住んでいれば費用は発生するので、対象経費としてもよいのではないか。

【採択結果】

対象事業として賛成・反対の意見が分かれたため採決。

賛成の委員14名起立により採択。(団体の顧問に対する講師謝礼は対象外)

●6: 市民のためのTwitter&Facebook 講習会

【主な意見】

- ・ツイッター・フェイスブックと最近できた言葉なので取っ付き難いところはあるが、市民に向けて知識を促すということはやってみてもいいのではないか。
- ・例えばFMアップルウェブなど、災害対策に力を入れているところと連携する内容であれば、ネットワークが伸びていくのではないか。
- ・ツイッターなどは便利だが、一方でその弊害もある。情報リテラシーに関する、守らなければいけないルールなどをきちんと踏まえなければいけない。
- ・市民一人一人がアカウントを持つという説明であったが、少し距離感を感じた。その環境にない人も多く、理想と現実の距離感を感じた。
- ・内容の半分くらいはいいと思うが、何をやりたいのかがよくわからなかった。こちらに伝わらないと判断がしづらい。

【採択結果】

- ・賛成の起立を求めたところ、賛成者なし。
- ・広く市民を対象に講習会を開催することは評価するが、講習会受講後の活用に具体性がないこと。「全市民がSNSでもつながる」に向けた取り組みが不明であること。 ⇒ 不採択

● 7：一コマ漫画から大震災と現代史を学ぶ移動展／動こう津軽！

【主な意見】

- ・ワークショップについては疑問であるが、移動展は良いのではないか。
- ・6月に開催された漫画展を見てきたが、一コマ漫画は少し政治的である。世界中からいろいろな漫画が集まったが、震災・原発でもぎょっとする表現がある。それを行政で応援することは、後で問題になるのではないか。
- ・この事業を歓迎する人もいると思うし、拒否する人もいると思う。個人で開催するのであれば面白い企画であると思う。

【採択結果】

- ・賛成の起立を求めたところ、賛成者なし。
- ・一コマ漫画で地域づくりをする文化活動は、弘前においては一般化していないのではないかと判断。 ⇒ 不採択

● 8：藤代地区の子供たちを見守り隊事業／自主防犯パトロール隊アップル☆キッズ

【主な意見】

- ・ただの読み聞かせではなく、身近なお母さんたちから紙芝居を通じて防犯を訓練する事業である。
- ・一次募集で採択となった「城西学区子ども安全サポート推進事業部」ともつながっている団体である。要望があれば、他の地域でも紙芝居を持って活動をしている。

【採択結果】

採択（申請額どおり）。

● 9：親業市民講座&親業訓練一般講座／さくらサロン

【主な意見】

- ・主たる経費が親業訓練協会に支払う受講料であり、受講者個人のスキルアップが主となる事業である。
- ・受講者の負担により実施する事業でないか。
- ・自分たちの活動を地域の中で広めていく活動であればいいと思う。

【採択結果】

- ・親子の掛け橋づくりを目的とする点は理解するが、受講者の個人負担で実施すべき事業と判断。
⇒ 不採択

【2次募集事業の審査結果（9事業）】

採択とする事業	5事業
不採択とする事業	4事業

《その他》

● 不採択団体等へのフォローアップについて

【提案内容】

- ・1次及び2次募集事業の審査を終え、せっかく申請しても半分くらいしか採択されない状況。申請手続きや事業内容の説明に慣れていない団体もあったため、不採択となった団体の人たちと前向きな形で意見交換をし、今後の申請に向けフォローアップしていきたい。

【主な意見】

- ・なぜ不採択になったのか、書面による通知だけでなく、委員の意見を伝える機会を設け、それを踏まえて再度申請してもらいたい。プレゼンに慣れていない方々に挑戦してもらうのはとても大事なことで、可能な限りフォローしたい。
- ・不採択となった団体等と日程を調整し、その日に参加できる委員で対応する。団体ごとに和気藹々とした雰囲気の中で話をすればどうか。
- ・不採択の理由は、申請団体が審査の場に居ればわかるもの。1次・2次募集は、審査の場に居ない団体が多くフォローが必要だが、3次以降は審査内容を聞いてもらえればフォローアップが要らなくなる。1事業ごとに、ヒアリング後審査してはどうか。
- ・限りなく採択に近い事業であればアドバイスもしやすいが、どうアドバイスすれば良いか難しい事業もある。打ち合わせ期間を設け慎重にやるべき。
- ・今年度3次募集に（10月31日期限）間に合わせるには、10月半ばあたりが時期的に限界。
- ・フォローアップの他、採択団体の方たちに、事業成果の発表をしていただき、申請の際の留意点等について説明してもらいたい。発表内容を聞くことで、不採択団体の今後のヒントになる。

【審議結果】

- ・不採択の団体、採択だが交付申請辞退の団体へ連絡。日程を決め集まれる委員で対応する。細かい部分については、委員長と事務局との間で検討しながら進め、後日委員全員に連絡。